

## 令和5年度 倉真地区集会 自由テーマ

### 自由テーマ

ケ：自治会活動

テーマの具体：「まちづくり協議会の持続可能な新たなステージを模索して」

### テーマ選定理由

#### ◆はじめに：

私達の地域は、何処の地域にも先駆けて、水質浄化型まちづくり土地条例に基づく「倉真地区まちづくり委員会」を設置しました。委員会では水質浄化はもとより、地域の課題解決や暮らし文化を育む住民自治活動を展開してきました。

現在まで、多くの地区内外の皆様を支えて頂きましたが、委員会設置の平成16年2月から約19年を経過し、来年2月には20年を迎える節目に、①定年延長という担い手不足に始まり、②制度設計において委員会から協議会へ変化する中で、目的意識も機能も弱体化し、地域内では制度の認知度さえも弱まってきていることから、今後のまちづくり協議会の未来をどう考えるか？は地域の課題になっています。

#### ◆テーマにして目指す姿：

○上記の課題において、改めて、「まちづくり協議会のありよう」を官民で立ち止まって見直すことで、次のステージの制度設計と倉真地区まちづくりの未来を考える機会とします。そして以下の課題

- ① まちづくり協議会の組織体制の見直し 理事会と代議員との関係の再構築
- ② 担い手不足の中で、地域の文化・歴史・名所の維持保全において、官民協働や地域や企業連携のあり様を模索（官民協働の広域化や多様化という進化を目指す）
- ③ 就労しながら区長やまち協会長が出来る未来のために、事務局体制強化をめざす。まちづくり協議会と区長会の両者をささえ、またそれぞれの組織の権能と責任において、事務局が介入できる支援の仕組み等を模索。今後に必要な課題解決テーマ等設定も積極的に行えるよう市役所の共創的支援が必要。

等を、このワークショップを起点にして、今後具体的に整理していきたいと考えています。

○地域社会にこれだけの変化（人口減少・高齢社会・農山村の産業の疲弊・定年延長で生涯勤労者）がある中で、自治会だけの奮闘に任せるのではなく、官民協働で「まち協」のあり方を再構築するべきではないか？と考えます。今回の地区テーマにこれをすえて、市役所の覚悟も伺いたく存じます。地方財政の見通しの中でも、働き方改革などの社会事情からも、今後益々住民自治は必要であるわけで、市と地域と役割分担をして、双方からのチカラ合わせが必要かと存じます。

#### ◆具体的な提案等

1ワークショップの具体的な問いは、以下の2点を用意する。

- 1 10年後の未来の倉真を想像してほしい。①倉真地区はどのような地域社会となるだろうか？予測する。一方で②おとぎ話の世界のように個性的で発展性のある倉真地域でいるかもしれないそれはどのような地域社会か？想像してほしい。未来思考で考察する。
- 2 ①と②で想像した地域社会になるとしたら、今私達は何をすべきか。仮定の話ではあるが、10年後の次世代の地域社会のために、今私達がすべきことは何か？A地域で解決すべきこと、B公共で解決すべきことを考察する。